

南ア月報
(2018年3月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事

【内政】

- 伝統的指導者との会合におけるラマポーザ大統領の答弁
- ラマポーザ大統領の国会答弁
- アブラムズ検事総長によるズマ前大統領起訴方針の表明

【外交】

- ラマポーザ大統領のアンゴラ、ナミビア及びボツワナ訪問
- ラマポーザ大統領のモンザビーク及びジンバブエ訪問
- ラマポーザ大統領のルワンダ訪問及びAU臨時総会出席
- 楊潔チ国家主席特使の南ア訪問
- ラマポーザ大統領とプーチン・ロシア大統領の電話会談

【経済】

<経済指標>

- 政策金利の引き下げ
- 経済成長
- インフレ率
- 為替レート
- 製造業
- 鉱業生産高
- 自動車販売台数

<出来事>

- 鉱物資源大臣が鉱業政策の進め方に関して声明発出
- ビジネス景況感指数の改善
- 歳入庁長官の停職命令
- 南ア信用格付けの見直し（ムーディーズ社）
- YESイニシアティブの開始

【広報・文化】

- 「日本文化祭」の開催
- 「アフリカ開発に係る日本の多様な貢献及び南アフリカ及び日本の経済連携における将来的見通し」をテーマとした講演会の実施
- フジコ・ヘミング氏によるクラシックコンサートの開催

【警備】

- ゴルフ場における強盗事件

1 内政

- 伝統的指導者との会合におけるラマポーザ大統領の答弁

1日、ラマポーザ大統領は、国会の伝統的指導者院(上下両院のような立法権はないが憲法上設置された伝統的指導者による諮問会合)にて答弁を行い、土地問題や伝統的指導者の威信を含む難しい問題に対しても、いつもの南ア流の向き合い方で徹底的に話し合いを行うことを通じて乗り越えてゆく必要があること等を述べた。

●ラマポーザ大統領の国会答弁

14日、ラマポーザ大統領は国民議会(下院)において与野党議員からの質問に対して土地問題及びズマ前大統領の裁判費用について答弁を行った。

土地問題に関し、ラマポーザ大統領は現状の土地の配分は改善される必要があり、そのひとつの手段として補償のない土地収用も排除されないと述べた。しかしながら、同大統領は、それが投資家を脅かしたり、農業生産性・食糧安全保障に悪影響をおよぼしたりするようなやり方は避けねばならないと付言した。

ズマ前大統領の裁判費用に関し、同大統領は、仮にズマ前大統領が個人の利益を不適切に増進したことを認める判決が出た場合は、同氏が裁判費用を国庫に返納することになると述べた。

●アブラムズ検事総長によるズマ前大統領起訴方針の表明

16日、ショーン・アブラムズ検事総長は、1990年代におけるズマ前大統領(当時副大統領)の武器売買に関する汚職への関与につき、前大統領を起訴すべきとの判断を表明した。ズマ大統領は、武器調達先の内定をタレス社(Thales:1997年に巡洋艦4隻を南アに納入)に与える見返りに賄賂として年50万ランドを受け取っていたと見られ、さらに、フランスの軍事・電気関連の販売促進を行ったと指摘されている。

2 外交

●ラマポーザ大統領のアンゴラ、ナミビア及びボツワナ訪問

2日から3日、SADC議長を務めるラマポーザ大統領は、アンゴラ(SADC政治・防衛・安全保障オーガン議長)、ナミビア(次期SADC議長国)及びボツワナ(SADC事務局ホスト国)を実務訪問し、各国首脳と会談した。本件訪問は、ラマポーザ大統領就任後、初の外遊となった。

●ラマポーザ大統領のモンザビーク及びジンバブエ訪問

17日、ラマポーザ大統領がSADC議長として、モザンビーク及びジンバブエ両国を実務訪問した。新任の大統領が隣国を訪問するのは長く続くSADC地域の伝統である。本件訪問では、南アと各国の間の二国間関係のみならず、アフリカや国際社会全体の問題が話し合われた。

●ラマポーザ大統領のルワンダ訪問及びAU臨時総会出席

20日、ラマポーザ大統領はルワンダを訪問し、カガメ大統領と会談した。翌日、同大統領は、AU臨時総会に出席し、SADC議長としてスピーチを行った。AU臨時総会では、アフリカ大陸自由貿易圏(AfCFTA)の設立に関する議論が交わされた。南アは、アジェンダ2063の理念に合致し、アフリカ内における貿易を活発化されるAfCFTAの設立にコミットしている。

●楊潔チ国家主席特使の南ア訪問

23日、ラマポーザ大統領は、ケープタウンにて、楊潔チ中国国家主席特使による表敬

を受けた。ラマポーザ大統領は、習国家主席の南ア訪問を心待ちにしている旨述べた。ラマポーザ大統領は、本年後半に正式に中国を訪問する予定である。中国は、今年11月に開催予定の中国国際輸入製品博覧会に南アを招待した。ラマポーザ大統領は、アフリカの対中輸出拡大や、雇用サミット及び投資サミットへの参加を含め、中国が南ア経済回復へのイニシアティブを支援するよう呼びかけた。

●ラマポーザ大統領とプーチン・ロシア大統領の電話会談

23日、ラマポーザ大統領は、プーチン大統領と電話会談を行い、同大統領の再選に祝意を伝達するとともに、ロシアが南アとアフリカ全体にとって引き続き重要なパートナーである旨述べた。プーチン大統領は、ラマポーザ大統領の就任に祝意を伝達するとともに、南アとの二国間関係、特に経済関係を強化していく考えを表明した。

●シスル外務・国際協力大臣のSADC閣僚会合出席

27日、シスル外務・国際関係・協力大臣は南アで行われたSADC閣僚会合に出席した。本国会合では、工業化、市場統合、地域統合のためのインフラ整備、平和及び安全保障、地域規模の特別なプログラム、分野横断的な課題、法人向けサービス及び機構改革等について話し合われ、これらの分野における前進が確認された。

3. 経済

<経済指標>

●政策金利の引き下げ

28日、南ア準備銀行（中銀）は隔月の金融政策委員会を開催し、政策金利を6.75%から6.5%へと0.25ポイント引き下げる旨を発表し、過去5年間で2度目となる金融緩和を決定。今回の決定の背景は、（1）ラマポーザ政権発足後、諸改革が奏功し景況改善につながったことによるGDP成長率の見直し改善、及び（2）インフレリスクの軽減。

GDP成長率については、改善しつつも依然不十分な水準であることに言及し、今後3年間のGDP成長率につき、2018年は前一月の予想から0.3ポイント引き上げ1.7%とし、2019年は1.5%、2020年は2.0%とした。

期待インフレ率は、付加価値税の1%引き上げ（4月1日施行）に伴うインフレ圧力がランド高により相殺され横ばい状態。カニャーゴ総裁は、インフレ率は2018年第1四半期に平均4.1%で底打ちするとの見方。今後3年間のインフレ率の平均は2018年4.9%、2019年5.2%、2020年は5.1%との予想で、中銀のインフレターゲット（3~6%）の範囲内であるものの、中銀はターゲット中間4.5%前後が望ましいとの立場。

ランドの対ドル為替相場は前回委員会（1月）から4.8%切り上がり、特にムーディーズによる南ア国債の格付け投資適格に維持（詳細は出来事欄に記載）したことで市場は安堵しているものの、これ以上の相場上昇余地は限られているとの見解。また、米国の金融引き締めはランド安リスク。

●経済成長

6日、南ア統計局は2017年第4四半期（10~12月）の実質GDP成長率を発表。前期比プラス3.1%、前年同期比プラス1.5%を記録。生産面で農林水産業が37.5%増、製造業が

4.3%増、他方で鉱業は4.4%減少した。支出面では家計消費3.6%増、固定資産形成7.4%増、政府消費支出1.6%増、及び純輸出3.7%減。

また、2017年通年の実質GDP成長率を1.3%と発表し、財務省の予想（プラス1.0%）をはじめ、大方の予想を上回る成長率となった。特に農林水産業生産の17.7%増と鉱業生産4.6%増がプラス成長に寄与した。さらに、2016年通年の実質GDP成長率を0.3%から0.6%へ上方修正。

●インフレ率

南ア統計局によると、2月の消費者物価指数（CPI）は4.0%、前月比0.4%減。全体的に前月から比較して平均0.8%値上がりした。

●為替レート

2018年3月29日付（南ア準備銀行）

9.0232 円/ランド

11.81 ランド/米ドル

14.54 ランド/ユーロ

●製造業

南ア統計局によると、1月の製造業生産高は、前年同月比2.5%増。主な要因は、食品・飲料で10.1%増、鉄鋼、非鉄金属製品及び電気機器で4.3%増、並びに自動車及び輸送機器関連製品及び輸送機器で5.5%増。季節調整後生産高は、前月比1.6%減（12月は前月比1.1%増、11月は1.2%増）。製造業10部門中8部門で増加し、特にガソリン、科学製品、ゴム及びプラスチック製品で2.9%増、食品・飲料で1.5%増を記録した。

●鉱業生産高

南ア統計局によると、1月の鉱業生産高は前年同月比2.4%増。最大のプラス要因は、前月に引き続き鉄鉱石で生産増（25.1%）及び非金属鉱物で27.1%増。他方、PGMs及び金ではそれぞれ13.6%減と7.7%減を記録。季節調整後生産高は3ヶ月ぶりに増加し、前月比1.0%増（12月は前月比3.8%減、11月は前月比1.2%減）。

●自動車販売台数

南ア自動車工業界（NAAMSA）は、3月の自動車販売台数を発表し、国内販売台数は過去3ヶ月間で最も多く49,233台となり、前年同月比1.1%増。他方、国外販売は27,438台で前年同月比8.1%減となり、BMW社が生産を3-SeriesからX3に切り替えたことが要因との見方。

総販売台数49,233台のうち90.2%はディーラー、5.3%はレンタカー販売が占めた。新車販売台数は32,176台となり、前年同月比3.7%増となった。時期的な要因からレンタカー業界が占める割合は減ったものの、新車販売台数のうち7%を占めた。

<出来事>

●鉱物資源大臣が鉱業政策の進め方に関して声明発出

20日、マンタシェ鉱物資源大臣はプレスリリースの声明の中で、①鉱業政策の確実性を高めるべく、鉱業憲章と鉱物石油資源開発法を投資家の信頼向上に向けて改訂すること

②鉱業憲章の課題である経済変革（Transformation）が多数黒人による所有権、経営及び実質的な参画等を意味していること、③経済変革が鉱業分野が競争力あることが前提であり、経済変革と競争力強化が排他的な目標ではなく長期的な目標であること、④これまで鉱物資源省と関係者間の協議が不十分であったこと、⑤今後は経済変革と業界の競争力強化のための2つのタスク・チームを設立し、3週間で報告をまとめること、⑥鉱物資源省と関係者間に開かれた・透明性を担保すること、⑦加えて、2008年の世界的な経済危機以来の鉱業成長発展雇用タスク・チーム（MIGDETT：Mining Industry Growth Development and Employment Task Team）を設立し積極的に鉱業の不安要素を排除していくこと、⑧地域コミュニティとともに鉱業憲章のプログラムを発展させていくこと、⑨鉱業憲章については2018年前半までに改訂すること等を公表した。

同日、業界団体の鉱業（Chamber of Mines）は、右大臣の声明について好意的にとらえる旨の声明を発出している。

●ビジネス景況感指数の改善

14日、The Rand Merchant Bank/Bureau of Economic Research は2018年第1四半期のビジネス景況感指数（BCI）を発表し、前期比11ポイント増の45ポイントとなり、過去3年間で最も高い数値を記録したと発表。BCIは5つの業界分野にわたる1700人の上級取締役からビジネス景況感を聴取して算出。特に新車販売を筆頭に、製造と小売業、建設業、及び卸売業でそれぞれBCI数値が増加。

南ア商工会議所（SACCI）が発表したビジネス景況感指数も、2018年に入り1月は99.7ポイント、2月は98.9ポイントと高ポイントを維持している。

●歳入庁長官の停職命令

19日、ラマポーザ大統領は”State Capture”等の汚職に深く関与したとして、モヤネ歳入庁（SARS）長官の即時停職を発表。大統領府は、本決定は歳入庁に対する信頼の回復と再建が公益に資するとした。同日、ネネ財務大臣はマーク・キンゴン（Mr. Mark Kingon）副長官を長官代理に任命。

●南ア信用格付けの見直し（ムーディーズ社）

23日、ムーディーズ社は南ア国債の信用格付けを発表し、ラマポーザ新政権の取組を評価し、投資適格のBaa3（BBB-相当）に据置きする旨を発表。また、見直しを”review from downgrade”から「安定的」に上げた。ムーディーズ社による見通しが投資不適格のジャンク級になっていれば、南ア国債は国際債券指標から削除され、大幅な資本流出がおこることが懸念されていたが、今般、その危機は回避された。

ムーディーズ社の発表に先駆け、7日、ラマポーザ大統領は自ら同社と会談するとともに、3月中旬にはネネ財務大臣が経済界代表を率いて英国及び米国を訪問。訪問先でネネ財務大臣は3大格付会社や投資家と会談し、格下げ阻止に尽力してきた。

また、本発表後、南ア経済連盟（BLSA）マブーサ（Dr. Jabu Mabuza）会長、モハレ（Mr. Bonang Mohale）同CEO及び南ア銀行協会（BASA）クーバディア（Mr. Cassim Coovadia）会長など南ア経済界は相次いで声明を発表。総じてムーディーズ社の決定を歓迎し、ラマポーザ政権の取組を賞賛した。

●YESイニシアティブの開始

27日、ラマポーザ大統領は若者雇用促進のためのイニシアティブ“*Youth Employment Service*”（Yes）の開所式に出席。本イニシアティブは1年半前に考案され、年間で33万人分、3年間で100万人以上の雇用創出を目標に掲げている。雇用創出によって政府・労働者・経済界及び市民社会と連携して南アの高い失業率への歯止めとなることが期待される。

4. 広報・文化

●「日本文化祭」の開催

当地大型ショッピングモールである「ブルックリン・モール」（プレトリア）において、1日から3日にかけて一般市民・来場客を対象とした「日本文化祭」を開催した。日本企業（当地富士フィルム及びパイロット）協力の下実施された同文化祭には、七夕飾り、ひな人形及び鯉のぼりの展示等日本の伝統行事ないし文化の紹介に加え、当地骨とう品収集家による室町時代の甲冑や打ち掛けの展示が行われたほか、当地生け花団体、盆栽団体、各種武道団体（柔道、剣道、弓道、空手及び琉球古武術）、コスプレ愛好家、琴演奏家によるデモンストレーションが行われ、3日間で約3,000人が来場するなど好評を博した。

●「アフリカ開発に係る日本の多様な貢献及び南アフリカ及び日本の経済連携における将来的見通し」をテーマとした講演会の実施

5日、当館及びプレトリア大学日本研究センターの共催により、当地訪問中の片岡貞治早稲田大学国際戦略研究所所長による「アフリカ開発に係る日本の多様な貢献及び南アフリカ及び日本経済連携における将来的見通し」をテーマとした講演会をプレトリア大学において実施した。講演会では、片岡教授からTICADを中心としたアフリカ開発に係る日本のこれまでの多様な貢献について紹介があった後、廣木大使をモデレータとしたパネルディスカッションが行われ、登壇者と聴衆との間で活発な議論が交わされた。

7日には当館及びステレンボッシュ大学の共催により、片岡教授による講演会を同大学において実施した。

●フジコ・ヘミング氏によるクラシックコンサートの開催

7日夜、世界的に著名なクラシックピアニストであるフジコ・ヘミング氏が、ブルックリンシアター（プレトリア）においてコンサートを開催した。同氏初のアフリカ訪問・公演ということもあり、会場には多数の聴衆が訪れ、ヘミング氏の奏でるピアノの音色に魅了された。

5. 警備

●ゴルフ場における強盗事件

3月11日夕刻、ミッドランドに所在するゴルフ場 Kyalami Country Club で複数犯による銃器使用の強盗事件が発生した。犯人らはゴルフ場事務室内に置かれた金庫を狙って侵入し、金庫を爆破して現金を強奪するとともに、ゴルフ場のバーに居た複数の客から財布や携帯電話を奪った。その後の捜査で9人の犯人が逮捕され、客や従業員から強奪されたとみられる携帯電話14個、財布2個等が押収されている。当地では、現金輸送を狙った強盗やショッピングモールにおける店舗対象強盗等、警備員が配置され、比較的高度な警備が敷かれている場所においても、引続き武装強盗が頻発している。